

平成 27 年度 熊本市歯科保健推進協議会における第1回検討委員会

開催日時 平成 27 年 11 月 20 日(金) 14:00～15:30

場所 熊本市健康センター新町分室 2 階

出席委員 8 名(五十音順・敬称略)

(逢坂 佐恵子、古閑 進、高松 尚史、竹田 和子、土屋 裕子、前田 篤志、
宮本 格尚、横田 瑞恵)

次第 1 開会

2 会長挨拶

3 議題

(1) 妊娠期・乳幼児期におけるむし歯予防について

(2) その他

4 閉会

《事務局》

—妊娠期における現状と課題について説明(資料1、2)—

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

事務局からの説明について、ご意見いただきたいが、まずは妊娠期と口腔の関係について専門的な立場から、高松委員に説明をお願いしたい。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

妊娠期における口腔への影響は、妊婦と胎児に分けられる。日頃から手入れが出来ていれば問題ないのだが、妊婦はホルモンの状況が変わるので歯周炎になりやすい。つわりがあると歯みがきがしにくいので、そこの対応をしていかなければならない。また、天草を中心に歯周病と早産の研究がされており、歯周病がある程度進んだ人は早産になりやすいという結果が出ている。そのため妊婦の場合は、むし歯よりも歯周病に注意する必要がある。胎児への影響については、母がたばこを吸うことで血液の循環が悪くなり、胎盤を通しての胎児への血流量が減ってしまうことがあげられる。そのため歯は胎児のときから作られているということを理解する必要がある。また、出産後のことになるが、生まれたときの子どもの口の中は無菌であり、むし歯や歯周病を起こす菌は、周りの人からの感染である。周りの人の口腔内が良好であれば、その人には良い細菌叢が出来ているので、それが子どもたちにうつってもらうと、子どもたちはお口の中が良い状態の環境となる。そのため生まれる前から、両親の口の状態を良くしておく必要がある。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

一般の方はこのようなことを知らない方が多い。また、2～3歳になって初めて歯科医院に訪れる方が多いので、それまでは歯科医師よりも医師や看護師と関わる人が多いと思う。そこで医師会に

お尋ねだが、妊婦受診等の機会に歯科のことについて何か伝えているか。

《前田委員：熊本市医師会》

パンフレット等があれば、健診している機関に設置しておくことは可能である。

《竹田委員：熊本県看護協会》

看護協会では、妊婦健診や母親学級で啓発している。ただ、そのようなところに来る方は意識が高い方ばかりである。

《逢坂委員：熊本県歯科衛生士会》

熊本県歯科衛生士会としては、子ども文化会館で行う講話の中で、お母さんの口の中をきれいにしておくことの大切さを伝えている。

《土屋委員：8020健康づくりの会》

(自分のことだが)妊娠したらまず産科に行ったが、産科で口腔内を見てもらったことはない。区役所にはどれくらいで行くのか。

《事務局》

親子健康手帳を発行するときだが、できるだけ早く来てもらっている(約6～7週)。その時に歯科健診も受けてもらっているが、その日受けられない方には後日歯科医院で受けていただくために、受診券を渡している。6割程度しか歯科受診していないのが現状である。

《土屋委員：8020健康づくりの会》

高松先生の話聞いて知らないことが多かった。そこの啓発が出来ていけば受診率の向上につながるし、知らないということが怖いと思った。

《事務局》

仕事があり、親子健康手帳交付時に歯科健診を受けられない方がいるが、出来るだけ来られたときに歯科健診を受けていただくよう対応している。現在46.5%の人が区役所で受診されている。残りの方には受診券を渡しており、そのうち約15%の方が歯科医院で受診されている状況である。市歯科医師会のほうでもチラシを作成していただき、産婦人科で啓発をしていただいているが、それでも受診が少ないというのが現状である。

《横田委員：熊本市保育園連盟》

保育園では歯がない時期からお口の健康について伝えているが、妊娠した方に対して、お腹の調子はどうかという声かけしかできておらず、歯科受診を受けられたかどうかは聞いていなかった。

《逢坂委員：熊本県歯科衛生士会》

10年ほど前に親子健康手帳の中に歯科の詳しい内容が記載されるようになったかと思うが、どのようなものだったか。

《事務局》

8020デンタルカレンダーという表記でむし歯予防のポイント等を記載している。

《横田委員：熊本市保育園連盟》

親子健康手帳では、体重等の変化を楽しみにチェックするので、そこに歯科があれば良いと思う。

《竹田委員：熊本県看護協会》

受診券は1回だけ無料ということで良かったか。

《事務局》

そのとおりである。区役所で歯科健診を受けなかった方に対して渡している。

《竹田委員：熊本県看護協会》

歯科受診されない方の受けない理由は何か。1回無料とはいえ、そこで歯周病やむし歯が見つかったら嫌だなと思われる方がいたりするのではないだろうか。

《事務局》

その理由は大事なところである。アンケート等で調査できれば、やっていかなければならないかと思う。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

東区の山川先生より現場としてのご意見をいただきたいと思う。

《山川医療主幹：東区保健子ども課》

区役所では妊婦歯科相談ということで週に1回実施しているが、歯科だけでなく保健師や栄養士への相談もある。また時間外にも栄養や歯科相談を受けられるようにしているが、それでも全ての方に行くのは難しい。歯科の受診券の発行に関しても断られる方がおられるので、そこが問題だと思う。また通院中の方に受診券の発行はしないので、あがってくる受診率は6割だが、別に通院中の方もおられると思う。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

高松委員がおっしゃったように、3歳までに細菌叢が決まると言われているが、それまでに歯科医院がアプローチできる機会が少ないようなので、接触していかなければならない。

いろんな場面で正しい知識や健診の必要性等を伝えていくことが必要である。健康寿命のはなしになるが、今からのことが2025年問題につながってくると思うので、それを含めて初めの妊娠期の問題は重要である。そのツールとして何があるか、例えば保育園なら保護者に啓蒙できる機会があれば園医がおられるので講話をお願いしたり、学校も学校歯科医がおられるので、そこから正しい知識を啓発したりすることが出来ると思う。

健康意識が高い方が来られるので、そうでない方のためにもいろんな場面で啓発していくことが必要である。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

基本的に親子健康手帳の交付率はほぼ100%だが、交付時にどの程度啓発しているのか知りたい。

《高本課長：東区保健子ども課》

親子健康手帳を取りに来られたら、待機していた歯科医師や保健師、管理栄養士等が対応する。熊本市ではそこに力を入れて必要な事項を伝えているため、ひとりにつき1時間かかる。経済的な理由がある方、つわりがある方など、それぞれに合わせた情報提供を保健師等が行っている。その中で、相談日以外に来られる方(約54%)こそ問題を抱えていると考えており、校区の担当保健師

が問診して問題を拾い上げ、対応できるように取り組んでいる。また、1歳半、3歳児健診の間を抜けて対応したりしているが、受けられなかった方に対して何らかの受診勧奨をするべきだと感じている。

《事務局》

参考資料の妊婦健康診査(公費負担14回)について、ほとんどの方が親子健康手帳を交付してから会う機会がないので、この妊婦健康診査を受ける中で、医療機関から情報提供していただければと考えている。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

産科は市内にいくつあるのか。

《早野副課長：子ども支援課》

市内に33ヶ所ある。松橋や菊陽でも受けられる。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

市歯科医師会でチラシを作って、医師会を通して産婦人科に置いてもらい、健診の際にお話して頂きたい。

《事務局》

一乳幼児期における現状と課題について説明(資料1、2)―

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

データはDMFTを使って出しているが、高松委員にDMFTについて説明して頂きたい。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

DMFというのはローマ字の頭文字でDはdecayed=むし歯、MはMissing=歯を抜いた、Fはfillingでむし歯の治療をした歯という意味である。つまり一度でもむし歯になれば治療をしたとしても欠損したとしても、その人のDMFは減らないということになる。資料のデータでは有病者率としていますが、DMFが1本以上ある者の割合ということでよかったか。

《事務局》

そのとおりである。

《竹田委員：熊本県看護協会》

1歳半と3歳児歯科健康診査の受診率はどのくらいか。

《早野副課長：子ども支援課》

1歳半児健診は約97%が受診され、歯科もほぼ同じ受診率である。3歳児健診も約96%が受診され、歯科も同じ状況である。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

ここでフッ化物洗口の進捗状況を事務局よりお願いしたい。

《事務局》

8月の歯科保健推進協議会からほとんど変わっていないが、モデル校を6校実施しており、来年

4月以降のことを検討しているところである。委員の皆様にも見ていただいたように報告書の中で課題や対応をまとめたので、これから関係者に配っていきたいと思う。それをもとに小学校でどれだけ普及させていけるかということで、やり方については関係部署等と話し合っているところである。今年度中に更にモデル校を増やしていきたいと思う。また、来年度以降は取り組みを増やすための方策として、学校側の負担感をどうするか、具体的な策を考えているところである。1校でも2校でも増えれば、進み方が変わってくるのではないかと期待している。また、マニュアルについても形になってきたので、1～2月頃には外部に出せればと考えている。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

保育園と幼稚園のフッ化物洗口の実施率はどれくらいか。

《事務局》

平成26年度末現在で、幼稚園が17.9%、保育園は57.1%の実施率である。また、私立幼稚園協会のご協力のもと、約70名の保護者(PTA)対象に食育と歯科の内容で研修会が行われ、その中で宮本会長からはフッ化物洗口の効果や子どものむし歯予防についてお話、行政からは保育園や幼稚園でのフッ化物洗口の取り組みとその後小学校へつなげたいという話をさせていただいた。アンケートを実施したところ、「フッ化物洗口の効果・安全性についてはよく知らなかった」という実態が浮かび上がってきた。また「自分の園でもしてほしい」、「小学校でも実施してほしい」という声が多くあった。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

フッ化物洗口の安全性について薬剤師会のほうから支援してもらうことは可能か。

《古閑委員：熊本市薬剤師会》

安全性について薬剤師会から回答するとともに、各学校に薬剤師がいるのでぜひ活用していただきたい。質問だが、なぜ熊本市と北九州市は政令市の中でむし歯の有病率が高いのか。

《事務局》

北九州市もむし歯予防の取り組みを考えておられ、情報交換している状況である。むし歯が少ない名古屋市では3か月児健診のときの保健指導の中で歯のことを少し話されていたり、2歳児を対象に歯科健診やフッ化物塗布をしたりして健康教育を実施されている。また、健診でむし歯になりやすい人を集めて、健康教育をしているところもある。

《古閑委員：熊本市薬剤師会》

1歳半歯科健診と3歳児歯科健診は歯科医院以外で実施しているのか。

《事務局》

区役所で実施している。

《古閑委員：熊本市薬剤師会》

妊婦のときは歯科健診をするとのことだが、その後は何年も歯科に行けない可能性がある。これからは医療・介護・子育ても地域で行っていくという地域包括の時代であり、歯科健診をきっかけに地域の歯科医院につなげるという取り組みが必要ではないかなと思う。そこで、健診で終わるのではなく地域のかかりつけ歯科医になってもらうための取り組みがあれば教えていただきたい。

《事務局》

平成16年度から1歳半歯科健診の際にフッ化物の体験塗布を行っており、その方々には早いうちから「かかりつけ歯科医の推奨」や、「定期的にフッ化物の塗布をすること」、「歯が生えたらフッ化物の入った歯みがき剤を使用すること」などを伝えているところである。それから3歳児健診までの間に2回以上フッ化物塗布を行ったかどうかを聞いており、半分弱の方が歯科医院に行っている(図11)。残りの半数の方にどのようにアプローチしていくかが課題であり、あらゆる機会を捉えて伝えていきたい。地域の子育てサークル等は意識の高い方しかこないのので、教室に来ない方に対して保育園などの場でも伝えていけたらと思う。

《事務局》

地域包括ケアのお話があったが、市でも地域の方と一緒に健康まちづくりということで取り組んでいるところである。その中で歯科についても行政と市民が一緒になって評価していくことが必要ではないかと思っている。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

歯科衛生士会としては乳幼児期のむし歯予防の取り組みを何かされているか。

《逢坂委員：熊本県歯科衛生士会》

幼稚園の保護者に歯科衛生士がいるので、そこを窓口にしたりしている。また、指導する側の職種の知識を統一しておく必要がある。資料1の5～6ページのようにむし歯の原因のデータがあるので、例えば1歳半健診などで伝えていくと良いと思う。歯科は医科に対して遠慮している部分があるので、小さい頃から歯の大切さについて強く言っていくべきだと思う。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

職種によって指導内容が異なってしまうと何を聞いたら良いか分からなくなってしまうので、すり合わせ等、行政と一緒にしていかなければならないことである。

《土屋委員：8020健康づくりの会》

各校区の未就園児対象の子育てサークル(月1～2回)で年に1回は歯科に関する内容があり、その際に推進員としてお手伝いしている。また、校区単位の健康まちづくり報告会(中央)に参加した際に、8020推進員の認知度がまだ低いことが分かり、残念だった。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

8020推進員には頑張って頂いているので残念である。保育園の現場では歯科の講話をする機会はあるか。

《横田委員：熊本市保育園連盟》

幼稚園協会のような取り組みや講演会の案内が園長会で出来るので、ぜひ来ていただきたい。また歯医者に来てもらい講習を受けるようなシステムも案内できればと思う。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

機会を見て取り組んでいくことが大切である。市歯科医師会からもできることをお話して頂きたい。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

市歯科医師会としては依頼があれば出向くようにしている。また、学校歯科医などの意識を高めた

り、市歯科医師会として話す内容がばらばらにならないよう統一していきたいと考えている。3歳児の結果のことで質問だが、母の喫煙が子どものむし歯にどう影響しているのか。

《事務局》

母の健康への意識に関連があるのではないかと考えている。過去に熊本市の1歳半健診において、むし歯があった子どもの母親の口腔内状況と子どものむし歯の関係を分析したことがある。妊娠中の歯科健診以降に歯科治療を受けているかどうかという質問に対して、「治療をしていない母親」の子どもに最もむし歯が出来ているという結果が得られたため、母親が妊娠している時から、子どものむし歯予防のためにも生活習慣に気をつけてもらうよう伝えていかなければならない。

《前田委員：熊本市医師会》

喫煙している母本人はむし歯が多くなるのか。

《高松委員：熊本市歯科医師会》

むし歯ではなく歯周病の人が多い。

《逢坂委員：熊本県歯科衛生士会》

補足だが、京都大学の川上教授が約77,000人を対象に行った研究によると、喫煙している家族がいると子どものむし歯が多いという結果が出た。原因としては受動喫煙により唾液成分が変化し、むし歯原因菌が集まり、歯垢やむし歯が出来やすくなるのではないかと分析がされている。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

乳幼児期のむし歯の課題は、歯科関係だけでなく多くの職種の総合力が必要なので、行政も含め、頂いた意見から今後の方向性を決めていきたい。

《事務局》

平成34年までに3歳児のむし歯がない者を9割以上にするために、各団体で今後出来る取り組みについて、12月25日(金)までにメールかFAXでご意見を頂きたい。

《宮本会長：熊本市歯科医師会》

今回欠席者の方の意見も頂き、皆様方のご意見をまとめて次回の検討委員会を出して頂きたい。

《事務局》

それぞれの立場から取り組んでいただいているが、今後行政がどう取り組んでいくのか、今日のご意見や1月に向けてアンケートをまとめていきながら、取り組みにつなげていきたい。また、ご意見を聞いて周知が足りていないと感じたところなのでその点も取り組んでいきたい。

— 終了 —